

平成 29 年度 事業計画書

学校法人 國學院大學



平成 29 年 3 月

平成 29 年度事業計画書の作成にあたって

今日の社会は、少子高齢化やグローバル化の進展、AI の発展による産業構造の変化等により、予測不能な時代に突入しております。これに伴って、社会が教育機関に期待する役割も複雑化・多様化しております。教育機関としての持続性を担保しながら、社会からの要請に応え、さらなる充実と発展を目指すためには、方針の明確化と資源の戦略的な配分に努めなければならないと考えています。

かかる状況に鑑み、5 ヶ年の中期計画として「21 世紀研究教育計画（第 4 次）」を策定し、平成 29 年 4 月から取り組みを開始いたします。今次の計画では、法人の 5 年後の目標を「『國學院』ブランドの確立と強化」と定めるとともに、これまで國學院大學だけの計画であった同計画を法人全体の計画に拡大いたしました。法人傘下の教育機関は、この目標に沿って、それぞれの中期計画を策定し、特長をさらに強化すべく取り組みを推進してまいります。

平成 29 年度事業計画書は、各教育機関が策定した中期計画に基づき、計画初年度である平成 29 年度に取り組む主要な事業について、記載したものです。本事業計画書では、各教育機関の冒頭に戦略ストーリーを掲載し、各事業と関連する戦略を併記することで、中期計画と当該事業との関連性や位置づけがより明確となるようにしています。中期計画である「21 世紀研究教育計画」と、それを単年度で切り出した事業計画、そして事業報告がしっかりと連動することによって、中期的な PDCA サイクルが構築され、計画全体の実効性が高まることを企図しています。

法人の目標である「『國學院』ブランドの確立と強化」は、各教育機関における組織的な取り組みと、そこに関わる人々によって成し遂げられます。法人としては、各教育機関の取り組みが円滑に遂行されるよう、ガバナンスを強化し、財政基盤の充実や施設・設備等研究教育環境の整備を行ってまいります。平成 29 年度は、創立 135 周年の節目の年となりますが、第 4 次計画終了後に、本法人のブランドが確立・強化され、140 周年、150 周年の礎となることを目指して努力してまいります。皆様のご指導ご鞭撻をたまわりたく、お願い申し上げます。

学校法人 國學院大學
理事長 坂口 吉一

目 次

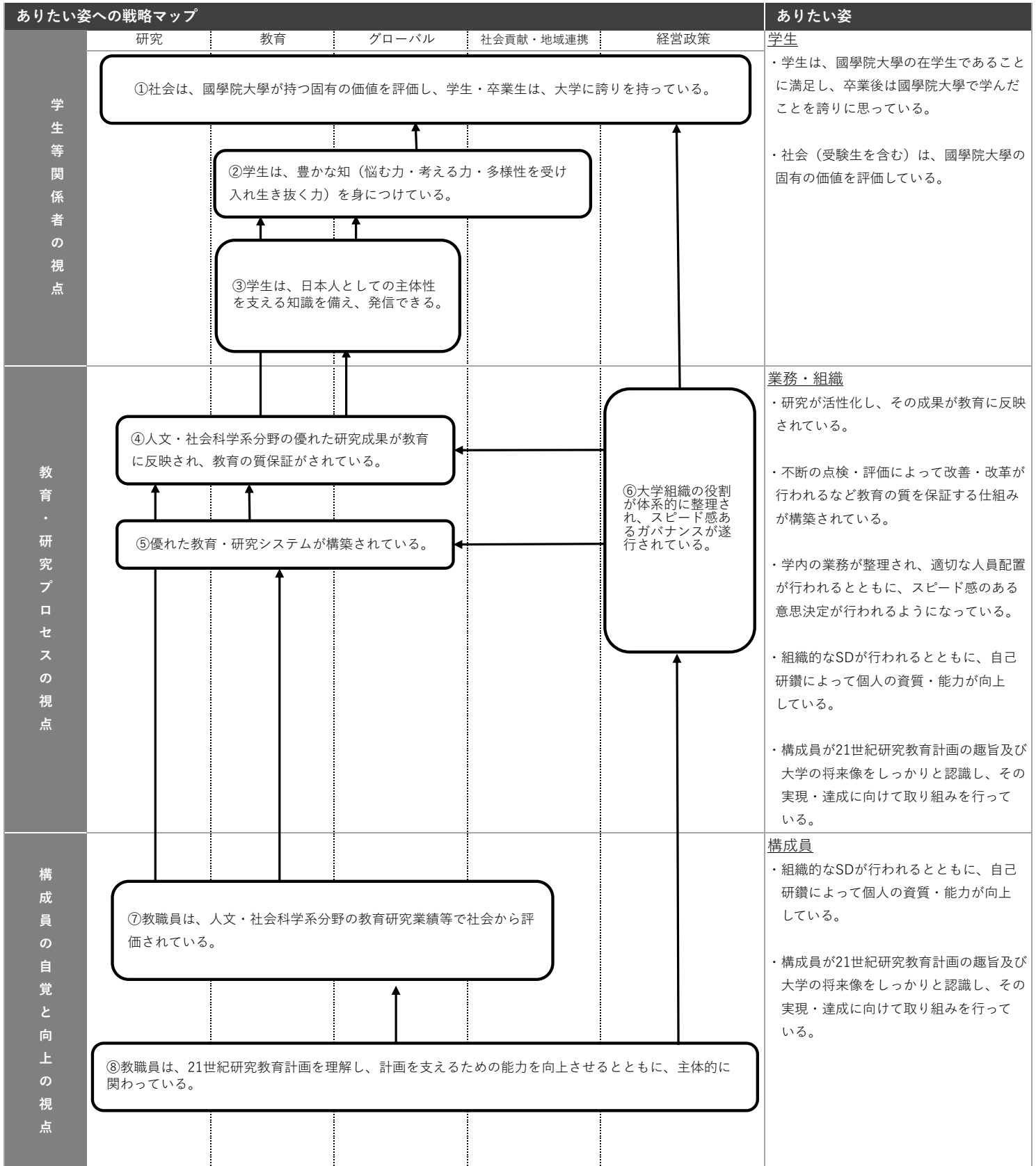
I. 平成 29 年度の主要な事業計画

[國學院大學]	1
1. 教育改革	2
2. 学生支援	3
3. 研究推進	4
4. 社会貢献、地域連携	5
5. 大学運営	5
[國學院大學北海道短期大学部]	7
1. 教育改革	8
2. 学生支援	8
3. 社会貢献、地域連携	8
4. 大学運営	9
[國學院高等学校]	10
1. 教育等の充実	11
2. 生徒募集	11
3. 運営体制及び施設の整備	12
4. 組織連携の強化	12
[國學院大學久我山中学・高等学校]	13
1. 教育等の充実	14
2. 生徒募集	15
3. 運営体制及び施設の整備	15
4. 組織連携の強化	16
[國學院大學附属幼稚園]	17
1. 教育（保育）等の充実	18
2. 園児募集	19
3. 運営体制及び施設の整備	19
4. 組織連携の強化	19

[國學院幼稚園]	20
1. 教育（保育）等の充実	21
2. 園児募集	21
3. 運営体制及び施設の整備	21
4. 組織連携の強化	22
II. 平成 29 年度予算概要		
1. 資金収支予算	23
2. 事業活動収支予算	24
3. 収益事業会計予算	24
III. 平成 29 年度主要事業		
1. 施設関係事業	25
2. 設備関係事業	25

國學院大學

VISION	「國學院ブランド」の確立と強化
将来像	人文・社会科学系の「標（しるべ）」となる
教育目標	主体性を持ち、自立した「大人」の育成



事業計画 (國學院大學)

平成29年度の取り組みに対する基本方針

21世紀研究教育計画 (第4次) において掲げた将来像「人文・社会科学系の『標 (しるべ) 』となる」を教職員が共有し、諸活動の軸として、改革を推進する。特に、教育目標「主体性を持ち、自立した『大人』の育成」のための、教学マネジメントに基づく教学の一体改革や、3つのポリシーに基づく教育の実践・検証などの取り組み、ならびに、「標」として、社会の負託に応え、斯界を牽引するための基盤を整備する取り組みなどを推進し、以下の項目を重点施策として実行していく。

※3つのポリシー：「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)、「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

1. 教育改革

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
1	教学ガイドラインの策定	教学マネジメント方針を明確化、可視化する。	・教学ガイドラインの策定。	②③⑤	1/1年目
2	3ポリシーおよび3ポリシーに基づく教育課程の検証	教育の質を保証する。	・3ポリシーと3ポリシーに基づく学士課程教育の点検・評価。 ・学修成果の可視化。 ・教学アセスメントポリシーの策定。	④	1/2年目
3	共通教育プログラムの点検・評価、及びその改善案の検討	「國學院大學」らしい学士課程教育を構築する。	・共通教育プログラムの科目運と学修成果の検証。 ・検証結果に基づく即時対応策の実施と改善策の策定。	②③	1/2年目
4	グローバル人材養成プログラムの強化	グローバル社会を牽引する人材を育成する。 グローバル化への対応の促進とキャリア支援を行う。	・グローバル人材育成プログラム(Global Common Core Program, GCC)の実施検討。 ・新GCP(グローバル・チャレンジ・プログラム)の実施。	②③⑤	1/1年目
5	語学力(英語)の検証	学修成果を可視化し、語学力の教育改善に資する。 自己の「実用的英語力」を確認し、学修のしるべとする。	・共通教育プログラムにおける英語学修成果の検証として、TOEIC学内受験実施(全1年次生)。 ・TOEIC一斉受験(外国語文化学科2年次生)。	②	1/1年目
6	留学・海外研修支援制度の拡充	海外経験の量と質を向上させる。	・留学等プログラムの満足度調査の継続実施。 ・協定留学奨学金の制度設計。 ・協定校ネットワークの拡充。 ・海外インターンシップの拡充。	②③	1/5年目
7	海外学生と本学学生の交流機会の拡大	本学学生のグローバル化への関心、語学力、モチベーションを向上する。	・海外協定校等からの短期日本研修の受け入れ。 ・本学で研修等を行う海外協定校等や近隣の国際機関との連携を通じた国際交流活動の実施。 ・K-STEP科目の再編。	②③	1/2年目
8	一般入試制度改革	本学への志向性が高く、確かな学力のある入学者を確保する。	・学内併願の検討。 ・VII期(センター試験利用型入試)の検討。 ・外部英語検定試験のスコア利用の拡大を検討。	①⑥	1/2年目

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
9	地方入試制度の改編	地方から本学への志向性が高く、確かな学力のある地方からの入学者を確保し、全国区大学を目指す。	・地方入試会場の最適化。	①	1/2年目
10	高大接続への対応	本学への志向性が高く、確かな学力のある志願者および入学者を確保する。	・附属・系列高校推薦制度について、推薦要件等の見直し。 ・高大接続改革への対応策検討。	⑤	1/3年目
11	外部評価委員会による点検・評価	教育の質を保証する。	・学外者による授業等教育内容の点検・評価を受け、指摘に基づいた改善の実施。	④⑤	1/1年目

2. 学生支援

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
12	就職支援体制の強化	学生の希望に沿った就職を実現する。	・内定者、OB・OGからの視点を生かした支援。 ・就活情報誌の制作。 ・就職関連イベントの実施。 ・インターシップ強化。	②	1/5年目
13	教員就職支援体制の強化	教育職員を輩出し、幼児教育から高等教育に至るまで、教育現場に貢献する。	・教職課程再課程認定に向けての基盤整備。 ・私立学校をも含めた教員就職支援の強化。 ・院友（卒業生）教員との連携。	①②⑤	1/2年目
14	公務員試験対策の策定	公務員試験に対応した支援を強化する。	・平成30年度実施に向けた、公務員試験対策講座制度の検討。	②⑤	1/1年目
15	学内奨学金と顕彰制度の充実	学生生活支援を充実させる。	・学生部長賞をはじめとする学生表彰制度とその実施方法の見直し。	⑤	1/1年目
16	学生支援システム(K-SMAPY)の更新	学生生活を十全に支援する体制を整備する。	・学生支援システム(K-SMAPY)を更新し、機能面を強化。	⑤	1/2年目

3. 研究推進

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
17	「古事記学」の推進拠点形成	『古事記』に立脚した日本文化の新たな創造と発展に寄与する世界的な研究拠点を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> 学統と学際的・国際的観点による本学独自の「古事記学」を構築し、その研究成果の国内外への発信、教育へと還元する。 共通教育科目「古事記学」開講。 『古事記』入門書製作。 『こども古事記』編集開始。 自己点検・評価と外部評価の実施(平成28年度「私立大学研究ブランディング事業」採択事業)。 	①③④⑦	2/5年目
18	研究成果の積極的公開	研究活動を活性化する。	<ul style="list-style-type: none"> 科学研究費申請数および採択率向上のための学内支援策の充実。 URA(研究支援専門職)による研究推進体制の基盤整備。 学会・シンポジウムの主催と参加促進。 	④⑦⑧	1/5年目
19	教育・研究活動等における評価指標の確立	教育・研究活動の客観性を担保する。	<ul style="list-style-type: none"> 教育・研究活動等における客観的情報の収集。 評価指標の検討。 	⑦	1/1年目
20	教育研究支援システムの整備	本学の研究者に関する情報を適切に管理し、運用していくことで、本学における研究の活性化に資する。	<ul style="list-style-type: none"> K-Readの外部研究者データベースや学内の研究者情報との連携が可能な研究者データベースへの刷新。 	⑤	1/1年目
21	研究活動の国際化の推進	国際的な視点に立った教育・研究を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 海外大学の教員による講座担当(集中講義)。 本学大学院と南開大学外国語学院との間で、学位授与に関する制度の策定。 	①⑦	1/5年目
		本学の国際的な評価を高め、国際的な学術交流を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 本学専任教員の外国語での研究成果公表支援。 研究成果をモニタリングするシステムの構築。 英文校閲料等の助成制度の導入を検討。 		
		海外研究者の受入れを促進し、本学の国際的学術交流を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 國學院大學国際招聘研究員の招聘。 Visiting Professorship制度の再構築。 		

4. 社会貢献、地域連携

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
22	東京オリンピック・パラリンピックへの積極的な参画	社会貢献・地域貢献を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 渋谷区および東京都と連携した東京オリンピック・パラリンピック学生ボランティア企画の推進。 新企画の検討と実施。 	②	1/4年目
23	ボランティア活動の推進	奉仕の精神を醸成し、社会性を体得する。	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア機会の創出。 学生ポートフォリオの活用と連動したボランティア活動の促進。 	②⑤	1/5年目
24	県人会制度の検討	地域との連携を強化し、全国区大学を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 県人会制度策定のための検討ならびに規約策定。 	①	1/1年目
25	産官学連携事業の検討	社会貢献を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 大学の知的財産を活用した事業の検討。 	⑤	1/2年目

5. 大学運営

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
26	校史学術資産のデジタルアーカイブ化	校史を正確に、かつ、わかりやすく伝承する。	<ul style="list-style-type: none"> 創立150周年史に向けた校史資料の整備計画の策定。 	①	1/5年目
27	貴重書目録の作成と公開	本学所有の学術資産一覧を公開し、広く研究を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> 図書館所蔵「貴重書目録」の整備、公開。 	①	1/2年目
28	卒業生調査の実施	國學院ブランドを検証する。	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生に対するアンケート調査の実施と検証。 	①	1/1年目
29	大学IRの推進	エビデンス・ベーストの政策決定を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> 諸データの整備。 IR人材の養成。 学生リアル調査の実施と学内データを用いた分析による改善・改革提案。 	⑤	1/1年目
30	意思決定プロセスの見直しと職務権限の整理	スピード感のある意思決定を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> 各業務の整理（効率化に向けた検討と問題点の洗い出し）。 事務局における意思決定プロセスと権限の整理。 意思決定プロセスの見直し、および権限委譲システムの構築。 諸規程の改定。 適正な人員の配置。 	⑥	1/2年目
31	組織の適正化の検討	大学組織の役割を体系的に整理し、スピード感あるガバナンスを遂行する。	<ul style="list-style-type: none"> 学内委員会の整理・統合。 改組と新学部設置に関する検討。 	⑥	1/2年目
32	体系的なスタッフディベロップメント(SD)の推進	大学の発展を支える教職員の資質・能力を組織的、体系的に向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員像の確立。 研修制度の見直し。 目標管理・人事考課制度の見直し（職員）。 職員実態調査に基づく各施策の提案・効果検証（職員）。 	⑧	1/3年目
33	専門学校跡地の再開発	教育・研究環境を拡充する。	<ul style="list-style-type: none"> 渋谷キャンパス内、旧東京環境工科専門学校跡地に新棟を建設。 	⑤	1/2年目
34	男子学生寮の開設準備	<ul style="list-style-type: none"> 地方からの男子学生の確保と、修学を支援する。 多文化理解を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 女子学生寮（学寮「常磐木」）同様、地方出身者ならびに留学生を対象とした男子学生寮の開設準備（平成30年度開設予定）。 	①⑤	1/1年目

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
35	たまプラーザ キャンパス 改修工事	教育・研究環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・空調設備の更新。 ・たまプラーザキャンパステニスコート防音壁設置工事。 	⑤	1/1 年目
36	創立135周年 記念事業	<ul style="list-style-type: none"> ・國學院ブランドの確立と強化。 ・「3つの慮い」を具現化する。 ・ステークホルダーに対して、本学への「絆」の共有と共感の浸透を推進する。 ・社会貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館における特別企画展の実施。 ・熊本における復興支援「特別記念講演会」の実施。 ・日本の伝統文化に関する「記念講演会」の実施。 ・研究教育成果の公表・公開など。 	-	1/1 年目

國學院大學北海道短期大学部

VISION	「國學院ブランド」の確立と強化
将来像	地域と共生し、地方創生の中核となる
教育目標	主体性を持ち、自立できる「地域人材」の育成

ありたい姿への戦略マップ	ありたい姿
学生等関係者の視点	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> ①社会人としての基礎力、課題解決力を有した地域リーダーとなれる人材を輩出し、社会に貢献している。 </div>
教育・研究プロセスの視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> ②教育課程の見直しが進み、カリキュラム・ポリシーに基づく理念と教育の仕組みが確立している。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> ③教育・保育指導者や、資格を活かせる専門知識と実践力を養成するプログラムが確立している。 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> ④学生情報の一元化システムが構築され、学生の学修・生活指導が充実している。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> ⑤地域の自治体や経済界との連携が強化され、本学の知的財産の活用が進んでいる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> ⑥学生募集基盤、長期的な財政基盤が確立している。 </div> </div>
構成員の自覚と向上の視点	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> ⑦教育の質を保证するための教職員の総合力が向上している。 </div>
	<p>学生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員と地域とが一体となって、学生を育成するシステムが確立している。 ・國學院大學や他大学への編入学・就職などの進路支援が充実し、明確な将来像を持つ学生が育っている。 ・卒業生がそれぞれの出身地で地方創生の核となる人材として地域で活躍している。 <p>業務・組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学した学生個々に対応できる支援システムを確立している。 ・学生募集の実効性確保に向けた効果的な教育課程と実践力養成のためのシステムを確立している。 ・本学の所在する地域における人材育成のための地域連携システムを確立している。 ・経営の安定化に向けた財政基盤を確立している。 <p>構成員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員体制が充実し、教育力と総合力が一層高まっている。 ・職員の業務推進能力が向上し、少数精鋭の体制が確立している。 ・教職員・学生が地域と一体となり、地域の核となる人材として活躍している。

事業計画 (國學院大學北海道短期大学部)

平成29年度の取り組みに対する基本方針

21世紀研究教育計画(第4次)に示した「地域と共生し、地方創生の中核となる」の行動計画初年度として、目標達成に向けた一年とする。

また、滝川市、滝川商工会議所、本学の三者で構成される「國學院大學北海道短期大学部に関する地域連携協議会」及び課題別研究会等での議論を踏まえ、地域ニーズをつぶさにとらえた短期大学部の運営を図る。上記を遂行することで、「主体性を持ち、自立できる『地域人材』の育成」を図り、地域の拠点となる高等教育機関を目指す。

1. 教育改革

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
1	英語力強化のための方策の立案と実施	学生の英語力の向上を図る。	学生の英語力向上の方策を立案する。試行として正課外英語授業(ネイティブによる)を年間30回実施する。効果を検証し、全体計画を策定する。	②	1/1年目
2	入学ガイド別冊版の作成	入学ガイドの別冊版を作成し、多彩な情報を掲載することで入学者の新規獲得をねらう。	編入学希望者の割合が増える中、編入学後の進路などの情報を掲載した冊子作成により、短大部から大学への編入学制度の魅力を発信する。	⑥	1/5年目

2. 学生支援

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
3	学生情報の一元化システムの構築に向けた学内組織の設立	入学前から卒業後までの学生情報を一元管理することで、一体感のある学生対応を行い、退学者の減少や進路決定につなげる。	管理システムの構築を図るための事例研究や、他大学の状況調査及び学生基礎力レポート試行の年とし、学内検討を進める。	④	1/1年目
4	進路指導充実のための学生満足度調査の実施	学生の意識調査の結果を、運営の基礎資料とする。それらを活用し、学生満足度を高め安定的学生の確保を目指す。	調査範囲・項目・内容等の検討をし、平成30年度に大規模実施をする。	①④	1/5年目

3. 社会貢献、地域連携

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
5	國學院大學北海道高等学校院友会との連携強化	院友高校教員との連携を進め、入学者確保を図る。教職課程の強化策として、現役院友教員の協力を受けることにより、教職志望学生の質的向上を図る。	北海道高等学校院友会組織との更なる連携強化と、教員採用試験対策として教職課程学生と現役院友教員との交流の機会を作り、指導を仰ぐ。	①③	1/5年目
6	自主講座の活性化と地域連携充実社会貢献プログラムの再検討	地域の自治体や経済界と連携強化を目的に、本学の知的財産の活用を進める。	滝川市及び滝川生涯学習振興会との連携事業の模索を進める。	⑤	1/1年目

4. 大学運営

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
7	施設整備計画の策定と財源の確保	開学から35年が経過し、施設の老朽化が目立つが、50周年を見通した施設維持をするために、施設整備計画を作成し、適正な管理運営を行う。	過去の施設整備状況を把握し、今後の施設整備計画を作成する。 平成29年度は、開学記念館校舎の外壁補修工事を行う。	⑥	1/5年目
8	教職員の能力向上、SD・FD研修の参加拡大	教育の質を保証する教育体制を充実させるため、教職員の総合力向上を図る。	学生の学修を支援する教育体制を確立し、これを運用支援する教職員の研修内容の充実・強化を図る。	⑦	1/3年目

國學院高等学校

VISION	「國學院ブランド」の確立と強化
将来像	日本文化への理解と、それを発信するコミュニケーション能力を育成する学校となる
教育目標	国際社会に貢献するに足る、知・徳・体のバランスの取れた人材の育成

ありたい姿への戦略マップ		ありたい姿
生徒等関係者の視点	<p>①國學院高等学校の社会的評価が確立されている。</p> <p>②生徒は、個々の目標の達成に向けて、主体的に活動している。</p> <p>③生徒は、チャレンジ精神・リーダーシップ・高い集中力・グローバルな視点・公共心を身につけている。</p>	<p>生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が主体的に個人の目標を達成できている。 積極性(チャレンジ精神やリーダーシップ)・高い集中力を発揮している。また、異文化を十分理解し、グローバルなコミュニケーション能力を身につけている。 さらに、公共心・ボランティア精神を身につけている。 偏差値にとらわれず、本校の持つ固有の価値を評価した志願者が増加している。
教育・研究プロセスの視点	<p>④優れた進路・学習指導体制が構築されている。</p> <p>⑤各種研修体制が整備され、生徒および教職員が積極的に参加している。</p>	<p>業務・組織</p> <ul style="list-style-type: none"> 進学実績において量的にも質的にも一層向上している。 また、学習指導体制がさらに整備されている。 人材育成のための魅力的な研修制度が整備されている。 クラブ活動の施設が十分確保されて整っている。
構成員の自覚と向上の視点	<p>⑥教職員は、スキルアップをし、教職員同士の協力体制が強固になっている。</p>	<p>構成員</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの教職員が教科指導力や生徒の能動的な活動を促す能力を向上させている。 教職員同士の協力体制・チームワークの意識が、より強固なものとなっている。

事業計画 (國學院高等学校)

平成29年度の取り組みに対する基本方針

代々受け継がれてきた本校の教育目標である「知・徳・体」のバランスを重視しつつ日々の教育活動を実践し、その成果として、時代に即した有為な人材すなわち日本文化の理解とグローバル社会で活躍するに足るコミュニケーション能力を備えた人材を輩出するよう、教職員の組織力向上を目指す。

1. 教育等の充実

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
1	教科指導の質の充実	多くの生徒に、主体的に自分の目標を達成させる。	生徒全員に対して、基礎力をしっかりと身に付けさせ、そのチェックを受けさせる。それぞれの学力に応じた指導を行っていくことにより、生徒の目標の進学先に進ませる。	②	1/5年目
2	進路・学習体制の構築	進学実績の質的、量的向上を目指す。	現行の進路学習の更なる充実化を図り、國學院大学との連携を進める。また大学入試改革に適応した新しい進路学習プランの作成準備を行う。英検講習や土曜日講習などの充実も図る。	④	1/5年目
3	各種研修の整備と充実	各種研修の整備により、生徒のニーズにあった学習の場を提供することで、生徒の能力を引き出す。	文学研修、科学研修、歴史研修、スキー教室、救命講習、マナー研修などの任意参加の研修や、2年生全員を対象とした裁判傍聴の実施。	⑤	1/5年目
4	教科外指導の質の充実	生徒に、積極性（チャレンジ精神やリーダーシップ）・高い集中力・グローバルな視点・公共心を身に付けさせる。	生徒会委員・生徒会執行部の活動、クラブ活動、学校行事、学級活動、各種研修、語学研修（国内・海外）への積極的な参加を促進する。	③	1/5年目

2. 生徒募集

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
5	生徒募集に関わる広報活動の検証・改善	本校の社会的評価が確立され、本校固有の価値を評価した志願者が増える。	<ul style="list-style-type: none"> 4回入試（推薦・一般1～3回）実施の検証・改善。WEB出願導入開始。 学校説明会・学校見学会・オープンスクール（入試問題解説）の検証・改善。 男子生徒募集対策の強化。 	①	1/5年目

3. 運営体制及び施設の整備

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
6	クラブ活動 施設確保	生徒にとって、心身共に鍛錬できる場となるクラブ活動のための環境整備・施設の充実を図る。	外部施設（硬式野球場・サッカー場）の調査。大学・渋谷区・新宿区との交渉を行う。	②	1/1 年目
7	教職員の研修 参加	教職員は、校内・校外の研修に積極的に参加することによって、スキルアップを図り生徒とともに成長することを目指す。	研修への主体的な参加や研究論文集『外苑春秋』への積極的な投稿、公開授業などの実施。	⑥	1/5 年目

4. 組織連携の強化

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
8	教職員の 協力体制強化	協力体制を強固なものにすることによって、教職員が全体として生徒の能力を育てる。	教職員の親睦会、各種イベント、スポーツ大会、教職員旅行などの実施。	⑥	1/5 年目

國學院大學久我山中学・高等学校

VISION	「國學院ブランド」の確立と強化
将来像	日本人の心・日本の文化への理解を深め、同時に発信できる真のグローバル人材を育成する学園となる
教育目標	学び続ける力・生き抜く力を持った人材の育成

ありたい姿への戦略マップ					ありたい姿	
生徒等関係者の視点	グローバル	研究	教育	社会貢献・地域連携	経営政策	生徒
生徒等関係者の視点	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ①卒業後も積極的に母校とのつながりを持ち続けることで、「國學院久我山」の一員としての共同体意識を深め、在校生の学びに貢献している。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ②「学び続ける力・生き抜く力」を養い、日本をより深く理解し世界に視野を広げることのできる有用な人間としての素地ができています。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ③男女別学体制のもとで、中高が連携した活動や学びを通し、生徒が主体的かつ協調的な姿勢を体得している。 </div>					生徒
教育・研究プロセスの視点	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ④中高6カ年を通した縦断的な教育活動ができる組織体制になっている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ⑤施設管理のみならず、あらゆる教育環境について常に検証し、地域連携を含め適正化を図っている。 </div>					業務・組織
構成員の自覚と向上の視点	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ⑥建学の精神に立脚しつつ、多様な価値観を認めることで、グローバルな人材育成を目指し、構成員（教職員）全員が新たな「國學院久我山」を創造する意識を持って、学園の更なる発展を目指している。 </div>					構成員

事業計画 (國學院大學久我山中学・高等学校)

平成29年度の取り組みに対する基本方針

5ヶ年の21世紀研究教育計画(第4次)において、最も重要と考えている項目は、中高一貫教育校としての充実した体制作りである。準備段階にあたる平成29年度は、そのビジョンを明確にし、全校が問題点を共有しながら第一歩を踏み出す。また、教育環境の整備やグローバル化に向けた取り組みはもちろんのこと、教職員の労働環境の向上は喫緊の課題であり、社会の情勢を踏まえ、教育の現場で出来得ることを実践していく。

1. 教育等の充実

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
1	国際文化交流(CC:カルチュラルコミュニケーション)クラス〈仮称〉編成準備	國學院大學が考えるグローバル「もっと日本を。もっと世界へ。」のコンセプトをもとに、生徒自身が日本文化を世界に向けて発信していくことのできる人間としての素地をつくる。かつ、新クラス設定により、受験生や学習塾などからの女子部への期待感向上をねらい、新たな受験層を開拓する。	<ul style="list-style-type: none"> 「(一般クラスの)名称変更と変更の趣旨・概要」、「入試選抜日及び方法」の検討と構成員への周知。 カリキュラム、設定教科原案作成と検討。 既存の国際交流関係行事(希望制)の必修化と新設メニューの検討。 各教科のシラバス作成。 戦略的広報活動の検討と実施。 	②	1/1年目
2	男女学年縦断行事の現プログラム精査・体系図構築	学年別行事を中高6カ年の体系化されたものとし、かつ学年や男女の「枠」を超えた学びの機会をつくることで、生徒が「学び続ける力・生き抜く力」を養うことを目指す。	既存の行事を土台としつつ6年間かけて有機的に繋がる行事作りをするために、学年行事や単発的な行事を見直す。中高宿泊行事、その他男女学年縦断行事の体系図を構築する。	②	1/2年目
3	生徒会・委員会活動の中高一貫体制検討	「課外活動」をより生徒自身の主体的な活動の場となるようにすると共に中高一貫体制を強化し、これをきっかけに生徒自身が何事に対しても主体的かつ自ら対話的に取り組む姿勢を養う。	執行部(役員)を中高から構成するための準備を行う。年間を通じて中高生が互いに有機的な関わり合いができるような環境づくりを検討する。	③	1/2年目
4	部活動顧問教員の中高統一化を検討(強化クラブ除く)	高校3年生部員(6年目)を頂点として、下級生をあらゆる面で引っ張っていくような活動形態を実現し、学園全体の一体感を強化する。	中高6年間を通じ、さらには卒業後も各自の趣味的な活動として続けられるような「部活動」を新設含め検討する。部活動顧問教員を中高で統一化することにより発生し得る事柄を仮定し、平成31年度より実施ができるように対処策または部の運営方法を検討する。	③	1/2年目
5	強化クラブのあり方について検討・再編	特化した活動体制を全面的に支援することで、学校全体の士気を高め、かつその知名度向上を図り、ひいては「学校法人國學院大學」への貢献を目指す。	現行の強化クラブの良い部分、見直しが必要な部分を、指導方法や部の運営方法など様々な視点をもとに見直し、再編のために何が必要かを明確にする。	③	1/2年目

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
6	国際交流プログラム・日本文化体得プログラムの更なる充実化	生徒自身が日本文化を体得し、世界へ向けて発信していきけるような機会を増やすと共に、世界の多様な価値観を認めることのできる生徒を育成する土台づくりをする。	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流に関する現プログラムの検証(プログラムの参加人数推移、参加者の変化など)。 大学と連携した教育活動拡充案の検討(留学生との交流、博物館の見学と体験学習、神道精神の理解と体験学習、国際交流課との連携)。 生徒の成長ビジョンの見立てをもとに新プログラムの検討。 	②	1/5年目
7	学習環境の向上のための改善項目リストアップ	生徒が居心地の良さを感じ、自ら学ぶ力を育み、やる気をより喚起することのできる環境を整える。そのために、生徒目線はもとより教員目線での改善項目を把握し、包括的に学習環境の向上を図る。	生徒の学習効果向上を図るために、どのような環境が適切かを様々な視点で検証する。その上で、現在の学習環境の改善項目を教員・生徒両目線で検討し、リストアップする。	⑤	1/2年目

2. 生徒募集

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
8	市場調査の見直し・入試日程や説明会実施内容及び時期の精査	受験生とその保護者のニーズを把握し、効果的な広報活動を行うことで入学者層の学力向上を図り、質の高い第一志望者の獲得につなげる準備を整える。	現在十分な市場調査の実施ができていないため、そもそも私学の市場調査は何が必要かを調べ、本校において何が重要かどうかを見極め、外部業者に依頼するかどうかも含めて検討する。	④	1/3年目

3. 運営体制及び施設の整備

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
9	現校務分掌における問題の明確化・新校務分掌の実施準備	教職員が互いに多様な価値観を認め合える環境を構築する。	現校務分掌において、教育活動におけるより高い質を求めたいこと、業務においてスピード性が損なわれていることなど、様々な視点で見直しを行い、改善項目を明確にする。その上で、生徒にとって効果的かつ各教員が連携を取るために効率的となる新校務分掌案を作成する。	⑥	1/2年目
10	第3グラウンドの人工芝施設化及び地域連携の強化	第3グラウンドの改修により運動場としての付加価値を高め、授業での活用・部活動の強化はもとより地域連携の強化を図る。	第3グラウンドを人工芝化し、雨天時でも各種の活動を可能とし、運動場としての付加価値を高める。第3グラウンドを近隣少年ラグビー・サッカースクールへ無償提供し、近隣地域との連携強化の一助とする。	⑤	1/5年目
11	放射5号線に伴う通学手段の検討	本校北側に平成30年度から放射5号線道路が新たに開通される予定に伴い、バス会社との提携により主要駅からの本校へのアクセスの利便性・安全性を向上させ、生徒募集のメリットとする。	近隣のバス会社と交渉し、利用度の高いJRの主要駅からの新たな停留所の設置および路線の確保を要請する。	⑤	1/3年目
12	各校舎の安全性の再検証	各校舎の安全性の再検証を行い、今後実施のキャンパスプランにおける将来計画(改修・改築)に向けた建物別の指標とする。	専門業者による各校舎の外観検査およびコア抜きを実施し、ひいてはその現状における安全性と老朽度を確認し、指標化する。指標に基づき、今後の建物別の使用年数を認識する。	⑤	1/2年目

4. 組織連携の強化

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
13	新人から中堅及び管理職に至る教職員それぞれの研修体制構想の作成	構成員の経験値および勤続年数に応じた内部・外部研修会に参加し、実践的かつ戦略的に人材育成を図る。 構成員全員に今後の久我山に起こり得る問題意識を常に意識させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・新卒・既卒問わず、新任教職員に対し、「國學院」を知る研修（國大研修）を実施する。 ・中堅教員から新人教員に対して、管理職から中堅教員に対しての意見聴取の機会を設け、連帯感・一体感を持たせる。 ・新人中堅者職員会議・主任職員会議・事務管理職会議を実施し、各構成員が学校運営の問題点や改善点を意識する。 ・今後の学校運営に活かす発想や経営戦略をあらゆる視点から検証する組織の構築により、全員が問題意識を共有する。 	⑥	1/2年目
14	同窓会との連携強化・同窓会内容のリニューアル・告知方法の改良	学校が同窓会との連携を強化することにより卒業生と在校生との関係性におけるシナジー効果を図る。また、生徒視点で学校の満足度を図り、広報活動にも活かす。	学校が積極的に同窓会の活動に関わり、卒業生と在校生との連携強化につながるための企画を立案する（同窓会主催新年交歓パーティーの映像演出の充実・学校および同窓会協賛による成人を祝う会の共同開催・医師薬学系同窓会および社長役員職同窓会の発足立案等）。	①	1/5年目
15	中高大の更なる連携強化のための検討	大規模校としてのメリットを活かし、國學院大学のリソースを活用することで、「國學院ブランド」の浸透・強化に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の高大連携プログラムの問題点の明確化。 ・現キャリア教育プログラムと連携した新プログラムの検討。 ・大学のリソースの中で活用するものを検討。 	⑥	1/5年目

國學院大學附属幼稚園

VISION	「國學院ブランド」の確立と強化
将来像	伝統文化、行事を通して日本人の心を感じ、生活の基礎力、人とかかわる力、自ら学ぶ力を持つ子どもを育成する幼稚園となる
教育目標	日本の良さを感じる心・遊びの中で心と体の育成

ありたい姿への戦略マップ			ありたい姿	
園児等関係者の視点	教育	社会貢献・地域連携	経営政策	<p>園児・保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季の自然の恵みに気づき畏敬の念や感謝の心を抱き、伝統文化を大切に感じる心を持つ園児。 ・建学の精神、教育理念の基に生活の基礎力、コミュニケーション力、学びに対する意欲を備えのびのびと自己表現ができる園児。 ・学校法人國學院大學関連の進学先に就学。
	<p>①就学後も保護者を含めて、学校法人國學院大學に関わろうとする意識を持ち続けている。</p> <p>②生活の基礎力、コミュニケーション力、学びに対する意欲と表現する力を持っている。</p> <p>③伝統文化や行事に対する知識や感情が、より深められている。</p>			
教育・研究プロセスの視点	教育	社会貢献・地域連携	経営政策	<p>業務・組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化、伝統文化に触れる機会や行事を法人メリットを活用して連携をとり実体験や感性を豊かにできるプログラムを実施。 ・小学校連携の教育活動や保護者への支援をバックアップできる組織。 ・教育時間終了後の教育活動の有用設定と附属幼稚園教育への有効活用を付加価値として常に検証できる組織。 ・変化する情勢の中でも将来像、目標の確認・検証を適時できる組織。
	<p>④園児の発達に合わせたカリキュラムが整備されている。</p> <p>⑤教育内容、教育環境に四季感が取り入れられている。</p> <p>⑥教育時間終了後の教育活動が付加価値として提供されている。</p> <p>⑦法人内連携により、日本の文化や伝統文化に触れる機会が提供されている。</p>			
構成員の自覚と向上の視点	<p>⑧建学の精神、保育理念の再確認と共有、就学前教育の重要性が認識されている。</p>			

事業計画 (國學院大學附属幼稚園)

平成29年度の取り組みに対する基本方針

創立65周年記念事業として、園庭の改修、プールのリニューアル、テラスの有効活用に向けての整備を行い、安全性と美観の向上を図る。また、平成30年の新学習指導要領実施に向け、就学前教育の重要性の視点に立ち、法人との連携・活用を加味した教育課程の再編成を始め、更に教育時間内外の活動や施設活用をも検討しつつ、本来の教育内容に付加価値をつけられるよう展開していく。

1. 教育 (保育) 等の充実

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
1	就学時、就学後の幼児の姿の確認、カリキュラム再編成 (非認知スキル重視)、カリキュラム評価指標の作成	幼保小連携プログラムに基づき、幼児期の資質、能力の育成についての再思考を行う。	幼児期の終わりまでに高めていきたい資質・能力の育成をカリキュラムに組み込み、幼保小接続期に経験させる。同時に確認のための指標を作成する。	②	1/2年目
2	心身・脳などの発達についての研修実施	脳科学における幼児の心身発達についての情報の共有と、教員の意識向上を図る。	新カリキュラムに組み込めるよう、幼児の心身の発達、特に脳科学に基づく発達についての教員研修を必修で行う。	④	1/2年目
3	伝統文化、行事体験プログラムの策定・検証と法人連携体制の構築・企画の検討	法人との連携により、日本の伝統文化や行事に触れる機会を提供する。	日本の伝統文化や行事の実体験を含むプログラムを策定・検証し法人との連携を構築し、企画の充実を図る。	⑦	1/2年目
4	行事内容の検証・再構築の検討 教育内容の四季感の取り入れ検討	四季のある日本の暮らしにあふれる心情・情景などを教育内容に取り入れ、美しい日本語、仕草などに気づくことのできる感性を養う。	行事の実施内容の検証と再構築を図りながら、保育内容にも四季感を取り入れるべく検討する。	⑤	1/2年目
5	預かり保育の教育活動としての検討	附属幼稚園の付加価値として、教育時間終了後の教育活動を提供する。	預かり保育の内容及びカリキュラムの検討を行い、預かり時間を含む今後の方向性 (教育活動の場として) を検討する。	⑥	1/1年目
6	発達支援の援助方法・教育カウンセリングの構築	支援施設との連携、情報共有、カウンセリングシステム等の構築を図る。	近年増加する発達障害児について、外部施設 (公・私) との連携・情報共有により、保護者がカウンセリングを受けられる機会を提供し、また担当教員へのアドバイスも可能にする。	④	1/2年目
7	伝統文化、行事の学びについての研究、法人との連携体制の構築・企画検討	幼少時より、伝統文化や行事に関心を持ち、学びを深め「日本」の良さを感じる心を育てる。	法人諸機関と連携し、伝統文化、伝統行事などを保育へ取り入れる企画を行う。	③	1/2年目

2. 園児募集

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
8	就学前教育の重要性についての研修の構築	就学前教育の重要性の認識・取り組み、さらにはその評価について職員の理解を深める。	杉並区教育委員会・東京都等主催の幼保小における幼稚園教育に関する研修に、全職員が参加できる形態（研修時間の拡大を含む）を構築する。	⑧	1/2年目
9	卒園児の進学調査・現状把握、認知資産の活用とマルチブランド展開の研究	就学後、またその先の進学先等の現状を把握し、保護者を含め國學院との関わりを存続し、久我山中学高等学校への進学を後押しするよう努める。同時に國學院ブランドと並行して、附属幼稚園ブランドを構築する。	連絡先等、就学状況などの確認を行う。	①	1/2年目

3. 運営体制及び施設の整備

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
10	園庭改修事業	園児の安全確保と、施設整備、美観の改善。	創立65周年記念事業として、園庭に面した外廊下や足洗い場、プール、花壇の老朽化を改善する。また、2階テラスを有効活用できるよう整備し、美観向上と共に安全な遊び場の確保を行う。	⑤	1/1年目

4. 組織連携の強化

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
11	人間開発部との連携体制の構築	大学内の教員養成課程との相互研鑽と交流により附属園としての就学前教育の充実を図る。	法人連携のもとに、人間開発学部の学生や教員との相互研鑽ができるような企画や交流を深めていくことで、就学前教育の充実を図る。	②	1/2年目

國學院幼稚園

VISION	「國學院ブランド」の確立と強化
将来像	先進的な保育に取り組み、幼児教育の「鑑（かがみ）」となる
教育目標	礼儀正しく、生きる力と思いやりのある子どもの育成

ありたい姿への戦略マップ			ありたい姿
園児等関係者の視点	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ①國學院幼稚園の魅力を理解した入園希望者が増えている。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ③伝統文化教育・日本文化教育のなかで、園児は礼儀正しさ、生きる力、思いやりを身につけている。 </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ②幼稚園ブランドが再構築され、地域社会および保護者に認識されている。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ④法人内連携により、法人としてのスケールメリットが活かされた運営がなされている。 </div>	<p><u>園児・保護者</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・國學院幼稚園の魅力が十分に理解され定員が充足している。 ・教育目標に掲げる園児が育成されていることが豊かな心の成長へと繋がっている。 ・幼稚園に対する保護者の理解が深まり、より良い関係ができています。
教育・研究プロセスの視点		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ⑤体系的な研修制度が確立され、教員の保育スキルが向上している。 </div>	<p><u>業務・組織</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的な保育が行える環境が整備されるとともに、幼稚園の将来的な在り方が定まっている。 ・保護者との連携を深めるための取り組みがなされている。 ・運営に関する教員の負担が軽減されている。
構成員の自覚と向上の視点			<p><u>構成員</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人数増加により環境設定が満たされている。 ・法人内での交流が活発に行われている。

事業計画 (國學院幼稚園)

平成29年度の取り組みに対する基本方針

本園は、建学の精神に基づく教育理念のもと、「いろいろな友だちや先生との生活をとおして、人として生きるための基礎となる力を身につけ、自己を形成していく場を提供する。また、あそびを中心とした保育をとおして自立心・協調性を養い、心身ともに丈夫な子どもを育てる」教育を実施する。

1. 教育（保育）等の充実

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
1	地域子育て支援の実施	幼稚園ブランドが再構築され、地域社会および保護者にそれを認められた幼稚園となる。	園児以外の地域住民への施設開放の実施や、「ママとなかよし会」といった2歳未満対象クラスを設けるなど、園が積極的に地域社会と関わりを持ち、様々な形で園とのつながりを深める活動を行っていく。	②	1/4年目
2	預かり保育の充実	幼稚園ブランドが再構築され、地域社会および保護者にそれを認められた幼稚園となる。	受け入れ態勢や、受け入れ期間、時間の延長など社会のニーズに合わせた預かり保育の内容の充実に取り組む。	②	1/5年目
3	伝統・日本文化教育のあり方検討	伝統文化教育・日本文化教育のなかで、園児が礼儀正しき、生きる力、思いやりを身につける。	従来のもちつきや豆まきなどの伝統行事や、明治神宮参拝などの体験学習に加え、國學院幼稚園としての特長となる伝統・日本文化教育のあり方を検討していく。	③	1/1年目

2. 園児募集

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
4	広報の充実	國學院幼稚園の魅力を理解した入園希望者を増やす。	未就園児クラス（ひよこ組）の魅力を周知するため、未就園児の日常的な姿や行事の様子などをホームページで伝えられるような仕組みへと改善する。	①	1/5年目

3. 運営体制及び施設の整備

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
5	研修制度の検討・確立	教職員の保育スキル向上、教育の質保証を実現する。	教職員の職階、経験（年次）に応じた必要スキルを明確にし、運営体制の改善整備や勤務体制の工夫など、やりがいのある職場作りや教職員の能力向上のために研修充実に努める。	⑤	1/2年目

4. 組織連携の強化

No.	事業名	事業目的	事業内容	21世紀	当該年度
6	大学の施設・設備を活用した保育の実践	法人としてのスケールメリットを活かした運営を行う。	大学の施設・設備の活用により保育の幅を広げ、より一層人間開発学部との連携強化に取り組む。特に、子ども支援学科との連携が強化されることで卒業生の定期的な採用や実習生の受け入れなどを確立していく。また、若木祭や共育フェスティバルなどの大学行事で園児の作品展示を行い、大学と幼稚園との交流を図る。	④	1/5年目
7	各校との連携を一層強化する	法人としてのスケールメリットを活かした運営を行う。	大学以外の各校においては、國學院高等学校、國學院大學久我山中学・高等学校との優遇制度をはじめ、今後、生徒の体験学習の受け入れや、教職員が各校に赴き交流を図るなどし、より一層の連携強化に取り組んでいく。	④	1/5年目

II. 平成 29 年度予算概要

1. 資金収支予算

資金収支の内容は、当該年度中のすべての収入及び支出の内容と資金の顛末を明らかにするものです。

平成 29 年度予算総額は 311 億 2,400 万円で、前年度予算総額に比して 14 億 3,000 万円の減額となっております。

収入の面での前年度予算額に対する増額の主なものは、借入金等収入ならびにその他の収入です。支出面での前年度予算額に対する増額の主なものは、教育研究経費支出、管理経費支出、借入金等返済支出、施設関係支出です。

また、人件費支出及び資産運用支出は前年度に比して減額の予算を計上しております。

資金収支予算書

平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで

(単位:百万円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	前年度予算	増減	科目	予算	前年度予算	増減
学生生徒等納付金収入	13,586	14,034	△ 448	人件費支出	9,490	9,649	△ 159
手数料収入	618	619	△ 1	教育研究経費支出	4,054	3,831	223
寄付金収入	469	470	△ 1	管理経費支出	1,207	1,161	46
補助金収入	2,128	2,164	△ 36	借入金等利息支出	19	32	△ 13
資産売却収入	0	51	△ 51	借入金等返済支出	1,290	850	440
付随事業・収益事業収入	167	196	△ 29	施設関係支出	1,522	748	774
受取利息・配当金収入	156	195	△ 39	設備関係支出	380	361	19
雑収入	349	442	△ 93	資産運用支出	2,621	4,461	△ 1,840
借入金等収入	1,067	627	440	その他の支出	184	261	△ 77
前受金収入	2,929	2,991	△ 62	予備費	499	529	△ 30
その他の収入	1,946	1,472	474	資金支出調整勘定	△ 179	△ 203	24
資金収入調整勘定	△ 3,164	△ 3,436	272	当年度支出合計	21,087	21,681	△ 594
当年度収入合計	20,251	19,825	426	翌年度繰越支払資金	10,037	10,873	△ 836
前年度繰越支払資金	10,873	12,729	△ 1,856				
収入の部合計	31,124	32,554	△ 1,430	支出の部合計	31,124	32,554	△ 1,430



TOPICS

各部門の主な内容は以下のとおりです。

	収 入	支 出
大 学	学生生徒等納付金収入で4億5,700万円、資産売却収入で5,000万円、付随事業・収益事業収入で2,800万円、雑収入で6,600万円の減額。その他の収入で5億4,300万円の増額。	人件費支出で6,200万円、資産運用支出で5億円、その他の支出で9,000万円の減額。教育研究経費支出で2億5,600万円、施設関係支出で7億400万円の増額。
短期大学部	学生生徒等納付金収入で3,300万円の増額。	資産運用支出で2,000万円減額。教育研究経費支出で3,400万円の増額。
國學院高校	学生生徒等納付金収入で2,400万円の増額。補助金収入で3,700万円の減額。	人件費支出で2,000万円、管理経費支出で1,600万円の増額、教育研究経費支出で7,000万円の減額。
久我山高校	学生生徒等納付金収入で1,800万円、借入金等収入で4億5,000万円の増額。その他の収入で3,000万円の減額。	借入金等返済支出で4億5,000万円の増額。人件費支出で1億100万円、資産運用支出で10億7,900万円の減額。

2. 事業活動収支予算

事業活動収支の内容は、当該年度の①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、③ ①②以外の活動、以上3つの活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにする＝区分経理と均衡の状態を明らかにする＝収支の均衡を主な目的としています。

財政の運営状況を示す本予算において、平成29年度収支差額は法人全体で29億6,600万円の支出超過となる予定です。この結果により翌年度に繰り越される支出超過額は45億2,300万円となる予定です。なお、支出超過となる主な要因として基本金組入額34億1,800万円が含まれます。

事業活動収支予算書

平成29年4月1日から
平成30年3月31日まで

(単位:百万円)

	科 目	予 算	前年度予算	増 減	特別 収入 の部 特別 収入	科 目	予 算	前年度予算	増 減
教育活動収入の部	手数料	618	619	△ 1	特別収入計	337	337	0	
	寄付金	167	170	△ 3		資産処分差額	25	72	△ 47
	経常費等補助金	2,108	2,141	△ 33	特別支出計	25	72	△ 47	
	付随事業収入	167	196	△ 29	特別収支差額	312	265	47	
	雑収入	349	442	△ 93	[予備費]	499	529	△ 30	
	教育活動収入計	16,995	17,602	△ 607	基本金組入前当年度収支差額	452	1,045	△ 593	
	事業活動支出の部	人件費	9,488	9,712	△ 224	基本金組入額合計	△ 3,418	△ 3,605	187
教育活動支出の部	教育研究経費	5,656	5,438	218	当年度収支差額	△ 2,966	△ 2,560	△ 407	
	管理経費	1,349	1,306	43	前年度繰越収支差額	△ 1,560	1,000		
	教育活動支出計	16,493	16,456	37	基本金取崩額	3	0		
	教育活動収支差額	502	1,146	△ 644	翌年度繰越収支差額	△ 4,523	△ 1,559		
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	156	195	△ 39	(参考)				
教育活動外収入の部	教育活動外収入計	156	195	△ 39	事業活動収入計	17,488	18,135	△ 647	
	借入金等利息	19	32	△ 13	事業活動支出計	17,037	17,090	△ 53	
教育活動外支出の部	教育活動外支出計	19	32	△ 13	※ 第1号基本金 11億1,800万円 教育の質向上のために取得した固定資産の価格 ■ 第2号基本金 3億円 教育の質向上のために将来取得する固定資産取得に充てるもの ■ 第3号基本金 20億円 基金として継続的に保持しかつ運用する資産となるもの				
	教育活動外収支差額	137	163	△ 26					
経常収支差額		639	1,309	△ 670					



TOPICS

教育活動収支	最も主要な区分となる教育活動における収支は5億200万円の収入超過を予定しております。
教育活動外収支	主に財務活動の区分となる教育活動外収支においては1億3,700万円の収入超過を予定しており、前年度予算から収入支出ともに減額の予算編成となっております。
経常収支差額	教育活動と教育外活動と合わせた収支である経常収支ベースでも6億3,900万円の収入超過を見込んでおります。
特別収支	資産の売却や処分などといった特殊な要因によって一時的に発生する臨時的な活動の収支は3億1,200万円の収入超過を見込んでおります。
基本金組入前当年度収支差額	当該年度の収支の均衡状況を明らかにすることを目的としている本段階においても4億5,200万円の収入超過を見込んでおります。

3. 収益事業会計予算

寄附行為第38条にて定められた収益事業(保険代理業)の平成29年度の予算は右表のとおりです。

(単位:千円)

科目	予算	前年度予算	増減
営業収益	3,000	3,000	0
営業費用	4,000	4,000	0
営業利益	△ 1,000	△ 1,000	0
営業外収益	1	4	△ 3
当期利益	△ 999	△ 996	△ 3

Ⅲ. 平成 29 年度主要事業

「21 世紀研究教育計画（第 4 次）」及び「事業計画」に基づく平成 29 年度の主な予算項目は以下のとおりです。

(1) 施設関係事業

部門	事業計画	勘定科目
國學院大學	渋谷隣接専門学校敷地新棟設計管理・新築工事	建設仮勘定
	たまプラーザキャンパス3号館空調更新工事	建物支出
	若木会館自動制御設備更新工事	建物支出
	たまプラーザキャンパステニスコート防音壁設置工事	建物支出
	國學院大學博物館除湿器設置工事	建物支出
國學院大學 久我山高等学校	烏山卓球場鉄骨補強工事	建物支出
國學院大學 久我山中学校	第3グラウンド人工芝敷設工事	構築物支出

(2) 設備関係事業

① 設備関係

部門	事業計画	勘定科目
國學院大學	3号館ホール大型図書関連什器設置費用	教研用機器備品支出
	教室関連AV機器更新対応費用	教研用機器備品支出
	KEANサーバリプレイス	教研用機器備品支出
	ネットワーク機器リプレイス費用	教研用機器備品支出
國學院大學 久我山高等学校	本館教室教壇更新費用	教研用機器備品支出
	女子錬成館空調設備更新費用	教研用機器備品支出

② 図書関係

(単位; 千円)

区分	教育研究用 図書	資産図書	合計
法人全体	211,780	197,270	409,050
國學院大學	189,550	192,770	382,320

解説

右表のとおり、本法人の資産の中でも特徴となる「図書」の資産は堅調に増加し、平成 29 年度においては約 116 億円規模の資産となる見込みです。

(単位: 千円) 資産図書推移

